

第一章活用事例

小学校五・六年生版「心たくましく
「朋友を語らんか…」

p.17

中心資料

小学校 道徳の指導資料とその利用6
昭和五十八年三月 文部省 「言葉のおくりもの」

【主題名】 男女の協力

第五学年及び第六学年 2-③

「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合おう。」

【ねらい】 互いに信頼し合い、学び合って友情を深め、男女が協力して助け合おうとする心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値について》五・六年生の時期の児童は、仲のよい友達との絆を深めようとする気持ちが強くなる反面、閉鎖的な仲間集団をつくる傾向も見られます。自分がどのように友達と接しているかを振り返らせながら、あるべき友達関係について考えさせ、互いに信頼し、学び合い、男女仲良く協力し助け合えるような真の友情を育てていこうとする姿勢を身に付けさせることが大切です。



「友達とはどのような存在ですか。」

○友達のことについて考えさせ、道徳的価値への方向付けをしましょう。

導入

○教師が「言葉のおくりもの」を読み聞かせしましょう。

○発問に入る前に、登場人物三人の一枚絵を用意して、消しゴムをすみ子がひろってあげた場面をとりあげて、三人の関係を整理しましょう。



「すみ子にひどくおこったときの一郎は、どのような気持ちだったでしょうか。」

○友達から、からかわれたり、ひやかされたりしないように、周囲の視線を気にしている一郎の気持ちを想像させましょう。



「たかしさん、こんなこともあるわよ。気にしない、気にしない。『どういすみ子の言葉を聞いた一郎は、どのようなことを考えていたでしょうか。』」

○一郎が（バトンを落とすなんて。）と想っていたこととすみ子の言葉の意味とを対比させながら、一郎の気持ちを想像させましょう。

展開

中心発問



「すみ子からの『言葉のおくりもの』を聞いた一郎はどのような気持ちだったでしょうか。」

○すみ子からの強いメッセージを受けて、一郎がこれまでの自分を振り返ったり、自分の誤りに気付いたりしたことを想像させ、すみ子の言葉にどのようにこたえていこうとしているかを捉えさせましょう。

《評価》 一郎に共感し、男女が協力し、互いに学び合おうとする大切さに気付くことができたか。



「これまでに、男女が協力して助け合えたことはどのようなことだろうか。」

○これまでの経験を振り返らせ、協力できた場面やそのときの気持ちを思い出させることで、互いの信頼し合い協力し合うことの大切さをあらためてたしかめさせましょう。

○「心たくましく」 p.17 「朋友を語らんか、心に切磋有るべし。」を読み、互いに高め合う友達関係について具体的に考えさせ、授業のまとめをするようしよう。

○説話として、教師自身が、男女が互いに協力し合い信頼し合ったことで友情を深められた体験を語りましょう。

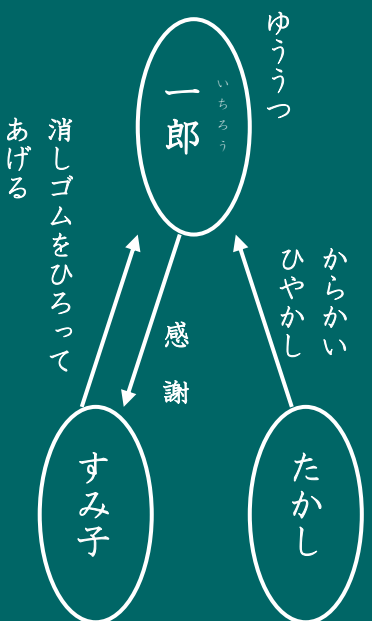
終末

板書例

あなたにとって友達とはどのような存在ですか。

- かけがえないそんざい
- こまったときに助けてくれるそんざい
- いっしょに遊んでくれるそんざい

言葉のおくり物



すみ子にひどくおこったときの一郎はどのような気持ちだったでしょうか。

すみ子が一郎に消しゴムを渡し、それを周りがかはしたてている挿絵

- また、たかしたちにからかわれるのはいやだ。
- ひやかされるからやめてくれよ。
- どこでだれに見られているかわからない。

「たかしさん、こんなこともあるわよ。気にしない、気にしない。」というすみ子の言葉を聞いた一郎は、どのようなことを考えていたでしょうか。

- どうしてたかしたちをなぐさめるのだろう。
- すみ子さんは、だれに対してもやさしくできるんだな。
- 自分は心の中でたかしをせめていたのにすみ子さんは、友達思いだな。

すみ子が、たかしをなぐさめ、その様子を一郎が見ている挿絵

すみ子からの「言葉のおくり物」を聞いた一郎はどのような気持ちだったでしょうか。

- すみ子さん、すごいな。
- これまでの自分のたいどがはずかしい。
- 自分のことをこんなにも考えてくれたのか。すみ子さん、ありがとう。
- これからもっと男女仲良く明るい友達でいたい。

「言葉のおくり物」をしているすみ子とそれを聞いている一郎の挿絵

朋友を語らんか、心に切磋有るべし。

《評価》 互いに信頼し合い、学び合って友情を深め、男女が協力し助け合おうとする気持ちをもつことができたか。